

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200091		
法人名	株式会社親孝		
事業所名	グループホーム親孝の里		
所在地	秋田県山本郡八峰町八森字中浜1番地13		
自己評価作成日	平成30年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成30年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

八峰町八森地区で唯一のグループホームである。窓からは海や山などの景色を眺めることができる。医療連携・看護師連携を強化し、入居時には看取り意向確認を実施しており、看取りができる体制を整えている。
ホームに併設しているレストランに食事を委託しているため、介護職員は介護業務に専念できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員は利用者に真摯に寄り添い、利用者の尊厳を重視した介護に一生懸命取り組んでいる。
- ・ホームに併設しているレストランは誰もが自由に利用することができ、地域に解放されている。
- ・利用者家族の要望に応じて利用者が重度化になっても出来る限り施設で対応するように努め、医療機関と緊密な連携により看取りを実施している。
- ・過去に津波を経験していることから、防災意識が高く、有事に備えるため夜間の避難訓練等を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分や自分の親が将来入りたくなくなるような施設を目指します」という理念を朝礼で毎日職員が唱和、共有して実践を心がけている。	簡潔・明瞭な理念を施設内随所に掲示しており、職員は常に意識して共有することができる。また、日常業務に関する4つの目標を掲げ、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のクリーンアップや防災訓練に事業所として参加したり、文化祭等の地域行事への参加や地域のお祭りのおみこしに来て頂いたりして地域に溶け込もうと努力している。	町内の文化祭や地区のお祭り、防災訓練等に参加して、地域住民との繋がりを重視している。また、海岸のゴミ拾いにも積極的に参加し、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした 地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	地域の行事へ利用者と一緒に参加したり、面会や見学に来所された方々に、実践や相談を通して認知症の方の理解や支援の方法を示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で行事や事故、ヒヤリハットの件数推移や防止策を公表し情報交換している。また会議の中で決まった、地域のおみこしや読み聞かせ・紙芝居のボランティアが実践されるなど、サービス向上に活かされている。	地域の有識者、専門職、利用者及び利用者家族等が参加して開催されている。会議では事故に関して詳細に報告して参加者から意見を求め、再発防止に努めている。	より充実した会議にするために、状況報告だけにとどまらず、施設側から課題やテーマ等を出して参加者全員で議論することができるように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明なことがあれば相談できる体制になっており、特に地域包括支援センターとは連絡会議への参加や介護認定の手続き上の連絡などを通し、関係構築を図っている。	随時空き部屋状況を提供して情報を共有しており、十分な協力関係が構築されている。また、他のグループホームとも交流して行事等に参加している。	他施設との交流に関しては前進している様子が伺える。今後は町当局とも連携してより活発に交流し、互いの施設の質を高めるような取り組みを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会の実施により、身体拘束のリスクや不適切なケアについて、スタッフ全員が理解を深め、身体拘束をせずにケアをしている。	身体拘束に関する勉強会を随時実施し、身体拘束が与える影響について話し合っている。特に身体拘束の必要性及びリスクに関しては全職員が理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修への参加などを通して、虐待防止関連法について学び、虐待がないか利用者の様子を互いに注意、観察している。またスタッフ同士でも言葉づかいなど不適切なケアについて注意しあい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の権利擁護事業を利用中の入居者もおり、今後も都度関係者と連携をとり、必要があれば活用を支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際はもとより、契約の改定の際にも、不明な点について質問を受けながら説明し、理解してもらえるよう気をつけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が出しやすいような雰囲気になるよう心がけ、目安箱も設置している。しかし目安箱の利用はほとんどないため、アンケートなど他の方法がないか検討していきたい。	利用者からは施設に対する意見や要望を随時聞くように努めている。家族からは面会の際に要望等を聞き、利用者へのサービス向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・終礼等で、「困っていること」など意見を吸い上げられるようにしている。また職員全員が参加する会議も月1回開催し、意見を聞く機会を設けている。	毎年実施している個人面談において、職員個々の意見を聞く仕組みがある。その他、職員全体会議での意見や日常業務の中での提案等を運営面に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回、人事考課等を実施し賞与へ反映させている。また資格取得のための費用助成などを行って、やりがいを持てるようしている。更なる職場環境の改善が必要と認識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまで以上に職員の力量を把握し、内外の研修にはできる限り参加させる方針であり、費用面の負担をして応援していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度初めて、利用者と職員と一緒に他のグループホームとの交流を図った。また地域ケアマネジャーの会議には継続して参加してサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を実施した職員が、入居時に立ち会うように心掛けている。入居後も不安にならないよう慣れ親しんだ生活習慣に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも事前にお話を聞いて、気軽に相談や質問の出来る関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者のできる範囲内で家事を手伝ってもらったり、職員の知らない畑作りの事を教えてもらったりしている。役割を持ち生きがいへつなげている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な物がある時・介護の方針を決める時・体調が悪い時など、家族に連絡して相談し家族と一緒に本人を介護していけるように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から使い続けている床屋・商店・置き薬屋などを使い続けられるよう、送迎したり連絡してホームに来てもらったりしている。	利用者が以前から懇意にしていた理髪店を継続して利用できるように、希望に応じて送迎している。また、知人等の面会により、昔からの関係を維持できるように支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努め、利用者同士が良好な関係でいられるよう、間に入って摩擦を回避したりコミュニケーションをとりながら介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談ごとに応じる旨、お話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中や家族からの情報をもとに、これまでの生活の思いを把握するように努めている。	利用者の入居前にケアマネがアセスメントして意向を把握し、他の職員に伝えている。入居後は担当介護員が定期的に意向を確認して、毎月の会議等で情報を共有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・利用していた医療機関やケアマネジャー等に聞いて把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者を観察し把握に努め、その結果をユニット日誌、ケース記録やバイタル表に記録し、職員で共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向をもとに、医師や看護師との連携および職員の意見も取り入れて計画を作っている。	毎月の全体会議でモニタリングした情報を共有して介護計画に反映している。利用者の心身状態が変化した際は、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入するほかにユニット日誌にも書いて、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族・友人などが面会に来やすい雰囲気心がけ、以前から利用している床屋・商店などに送迎したり、置き薬屋に来てもらったりして楽しめるように配慮している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各医療機関とは受診介助の際などを通して、良好な関係構築を図っている。病状の変化や受診の利便性から変更を勧める場合もあるが、本人又は家族に説明し納得してもらっている。	基本的には入居前のかかりつけ医との関係を重視している。病状に応じて医療機関を変更する際は家族に十分に説明して同意を得ている。また、利用者の負担軽減のため往診歯科を積極的に利用している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に相談し適切に手当て、受診が行えるよう支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院によく申し送りするよう努め、入院中は連絡や相談もよく頂ける関係にある。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向をお尋ねし、重度化した際にも話し合っており看取りに関する意向確認に随時署名していただき、事業所で出来る限りは意向に沿えるよう嘱託医はじめ医療機関と協力しながらケアをしている。	家族の要望に応え、過去に看取りを実施した事例がある。看取りの際は介護計画を変更して職員で統一した対応に心掛けている。看護師が配置されており、医師の指示の下、点滴等の医療行為を実施することができる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など救急救命講習の受講をし実践できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・津波の訓練は、日中の訓練の他夜間想定訓練を実施し、身につくようにしている。地域住民の訓練への参加はあったが、協力体制は組織されている訳ではない。	地域の防災訓練に合わせて施設の避難訓練を実施している。また、夜間帯の避難訓練も実施しており、新たに気付いた課題を検討するなどして前向きに取り組んでいる。	避難訓練の際に地域住民の協力を得ることができるように、行政とも連携して地域との災害協定を締結できるようにすることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の排泄や秘密・不名誉に感じるかもしれない事柄は、職員間でも大きな声で話さないように気をつけ、人格を尊重した対応をしている。	利用者に対して不適切な言動がないように職員同士で常に気をつけている。また、入浴や排泄の際は、利用者の意向を重視して同性介護で対応できるような体制を構築している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り家族や施設などの都合ではなく、本人の意向に沿えるよう、本人に聞いたり表情などから推測したりしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理に入浴や手伝いや体操などをさせるのではなく、健康を害さない範囲で行わない自由も認め、各自のペースで過ごしてもらえるように心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長年、化粧品の営業に従事してきた人は、毎朝お化粧をすることを日課としている。髭剃りや髪をとかすなど忘れていた事を声かけや介助して行い、衣服等もどれを着るか答えられる人には聞いて選んでいる。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い・テーブル拭き・お盆拭きなど、それぞれの得意分野に合わせて行ってもらっている。毎月1回は夕食会と称して職員と利用者で、きりたんぼやだまこもちを作ったり寿司を買ってきて食べたりしている。	食器洗いや食材の下ごしらえ等、利用者がなるべく参加して食事を楽しむことができるように支援している。家族の面会時には希望に応じて併設のレストランを利用できるように取り計らっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録して把握に努め、状態に応じて刻みやミキサー・トロミなどにしたりコンブ茶・養命酒・梅干し・卵など好みに応じた物をお出しするようにしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方にはトイレ誘導や介助を行い、自分で行ける方にも必要な時に声かけ・介助してパッド交換などを行い、排泄が滞らないよう、また清潔が保てるよう支援している。	入居時の排泄形態をただ継続するのではなく、利用者の意向に沿った排泄支援に心掛けている。トイレ誘導の際は一律ではなく、個々の排泄間隔に応じて随時誘導するように努めている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう処方薬の使用の他、水分をよく摂ってもらえるよう工夫したり、運動するよう働きかけている。便秘の際には看護職員に相談している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入っていない順に入浴をおすすめするが、気乗りしない場合には無理をしないようにしている。健康上問題があるくらい入っていない方には、声かけを工夫して入ってもいいかなという気持ちになるよう図っている。	施設側が入浴日を特定するのではなく、利用者本人の希望に応じた入浴支援に心掛けている。また、毎日夕食後に足湯を実施して、気持ちよく就寝できるように取り組んでいる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「夜眠れなくなるから」と言っても昼寝させないのではなく、昼でも寝る習慣の方には寝てもらっている。夜は静かに暑すぎないようにして、よく寝れるように図っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に介護職員は、薬の把握に努め状態を観察し必要な時には医師や薬剤師などに報告や相談を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作りや園芸を通して、季節感や収穫の喜びを味わい楽しんで頂いている。また、食事の片付けや掃除・洗濯・カーテン閉め・新聞をたたむなど得意なものを役割として行って頂いたり、養命酒・コンブ茶・卵・ノンアルコールビールなど好きなものを飲食できるように用意したりしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日などに回転ずしに出掛け、楽しんで頂いている。訴えのある方に対しては出来る限り要望に応じて外出を介助しているが、訴えない方については今後計画的な外出が課題である。	利用者本人の希望により、担当職員と一緒に外食を楽しむことができるように支援している。年に数回実施している季節毎の外出の際は、全利用者が参加できるように出勤職員を増やして対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ち使いたいという気持ちを理解し、職員にお金を配ろうとする時も受け取り、後に本人の預り金に戻している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す時には、切手を準備したり投函したりして支援し、届いた時には本人に渡している。電話についてもダイヤルを押して手伝っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で悪臭のない空間になるよう毎日清掃し換気を心がけている。明るすぎたり暗すぎたりしないよう照明を調整したり、カーテンを開閉したりしている。温度についても冷暖房を調整したり、窓を開閉して適温になるよう気をつけている。	海沿いに面した立地条件を活かし、夏季の天気の良い日は窓を開けて海風を取り入れている。冬季は窓の開閉が少ないので、暖房機や空気清浄器を使用して快適な空間になるように配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置するなどして、気の合う方同士が並んで座ったりできるように、配置などに配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは本人の使い慣れた家具や寝具、持ち物を持ってきて頂いている。入居後も本人の作ったものやバースデーカードなどを飾るなどしている。	自宅と異なる居住環境でも落ち着いて生活できるように、入居時には好みの家具や家族の写真、位牌等、利用者本人にとって大切な物を持参するように勧めている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」の表示を大きくしたりして、出来るだけ本人の力で生活できるように配慮している。		